

学校だより

令和7年1月8日



いちよう

目指す学校像

生徒一人一人の力が伸びる学校

新座市立第三中学校

〒352-0015 新座市池田 1-1-1

TEL (048) 479-4052 FAX 482-0133

あきらめない心を大切に

校長 石田 和男



新年 明けまして おめでとうございます

2025年がいよいよ始まりました。本年も引き続き本校の教育活動へのご理解・ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

3学期は、ホップ・ステップからいよいよジャンプの時期となります。今の学年の一年間の総仕上げをするとともに、次年度への進学・進級に備える季節です。生徒一人一人が自分の良さの可能性を見出しながら、夢や希望をもって、新たな年度に向かえるよう、教職員一同で導いていきます。ご家庭におかれましても、改めて新年に向かう思いを、お子様と語り合っただけであればと願っております。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

さて、皆さんは、イソップ寓話の「カラスと水差し」を知っていますか。次のようなあらすじですが、考えながら読んでください。

一羽のカラスは、長い旅を続けていて、のどがカラカラに乾いてしまっていました。あるところで、底の方に少しだけ水が入っている水差しを見つけました。水を飲もうとしたカラスですが、水差しは水が少ししか入っていない上に飲み口も細くなっているため、水面までくちばしが届きません。カラスは途方に暮れましたが、何とかしてこの水を飲もうとあらゆる方法を試しました。しかし、なかなか水を飲むことができません。あきらめられないカラスは、とあるいい方法を思いつき、実践したところ、見事に水を飲むことができたのです。



皆さんは、カラスはどのようにして、水を飲めたと思いますか。

カラスは、近くに落ちている小石を拾い集め、ひとつずつ小石を水差しの中に落とし続けました。すると、水差しの水位は、石を入れた分だけ増えていき、ついにくちばしに届いたのです。こうしてカラスは、命を長らえることができたのでした。

「カラスと水差し」から学ぶ教訓は、2つあります。一つは、「発明は必要の母」。不自由や不便なことがあるから、それを打開するために、はじめて発明があることをいいます。何か成功するために考えに考え、ひたすら考え抜いていけば、気づきや思いつき、ひらめきが生まれるものなのです。もう一つは、「工夫を凝らして挑戦し続ける」。一つ一つの行動は、目標を達成するまで、わずかなものかもしれませんが、でも、たとえわずかな一歩でも着実に目標に近づいていくわけです。あきらめずに挑戦を続けていけば、やがてゴールにたどり着くものなのです。「塵も積もれば山となる」とはこのことなのです。

寓話とは、「教訓を伝える物語のこと」をいいます。紀元前にこの物語が成立していたという事実から、はるか昔から人々への教訓は共通していたと思うと面白いですね。